

この度、以下の通り公益財団法人JKAから平成25年度競輪公益資金による補助金の交付を受け、「平成25年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業」を完了いたしました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますとともに、公益財団法人JKAをはじめ、ご協力賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

1 事業名 平成25年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業

2 総事業費 28,909,468円

3 補助金額 19,011,000円

4 完了日 平成26年3月12日

5 実施内容及び成果

(1) 実施内容

①第13回全国障害者スポーツ大会（東京都）

開催日：平成25年10月12日（土）～14日（月）

実施場所：東京都内（味の素スタジアム他）

開催競技：陸上競技、水泳、卓球（サウンドテーブルテニス含む）、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、バスケットボール、車椅子バスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、フットベースボール、バレーボール、サッカー

オープン競技：ウィルチェアーラグビー、グランド・ゴルフ、車いすフェンシング、ゴールボール、視覚障害者ボウリング、障害者シンクロナイズドスイミング、スポーツチャンバラ、スポーツ吹矢、精神障害者フットサル、ダーツ、手のひら健康バレー、バドミントン、ハンドサッカー、ブラインドサッカー、ボート、ボッチャ、ユニカール

②第13回全国障害者スポーツ大会予選会

1) 聴覚障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成25年5月11日～6月22日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)	
北海道・東北	札幌市	—	6月22日 河西体育センター（青森県）
関東	栃木県	神奈川県	5月25日～26日 国立代々木競技場第1,2体育館（東京都）
北信越・東海	愛知県	岐阜県	6月2日 聖籠町総合体育館（新潟県）
近畿	兵庫県	兵庫県	5月26日 栗東市市民体育館（滋賀県）
中国・四国	広島市	広島市	5月18日～19日 水島緑地福田体育館（岡山県）
九州	福岡市	沖縄県	5月11日 熊本市総合体育館（熊本県）



2) 視覚障害者グランドソフトボール競技

全国を8地区に分け平成25年5月12日～6月9日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	岩手県	6月8日～9日	秋田県立盲学校（秋田県）
関東	埼玉県	6月2日	山梨県笛吹市花鳥の里ｽﾎﾟｰﾂ広場（山梨県）
北信越	富山県	5月19日	五福公園ｽﾎﾟｰﾂ広場（富山県）
東海	愛知県	5月19日	小笠山運動公園（静岡県）
近畿	大阪市	5月26日	明石市立海浜公園臨時球技場（兵庫県）
中国	広島県	5月19日	松江市海洋センターｽﾎﾟｰﾂ広場（島根県）
四国	愛媛県	5月12日	徳島県立ろう学校ｸﾞﾗﾝﾄﾞ（徳島県）
九州	鹿児島県	5月12日	沖縄県立武道館アリーナ棟、 漫湖公園多目的広場（沖縄県）



3) 車椅子バスケットボール競技

全国を6地区に分け平成25年5月18日～6月23日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	仙台市	6月22日～23日	能代山本スポーツセンター「アリス」(秋田県)
関東	埼玉県	5月26日	東京体育館(東京都)
北信越・東海	愛知県	6月8日～9日	いしかわ総合スポーツセンター(石川県)
近畿	神戸市	5月26日	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター(大阪府)
中国・四国	高知県	5月18日～19日	ココロウエストスポーツパーク体育館(鳥取県)
九州	長崎県	6月8日～9日	北九州市総合体育館(福岡県)

4) 知的障害者バスケットボール競技

全国を6地区に分け平成25年4月13日～6月16日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)		
北海道・東北	秋田県	秋田県	6月15日～16日	宮城野体育館(宮城県)
関東	横浜市	神奈川県	5月26日	東京体育館(東京都)
北信越・東海	長野県	愛知県	5月18日～19日	下諏訪体育館(長野県)
近畿	大阪市	大阪市	6月9日	奈良文化女子短期大学アリーナ(奈良県)
中国・四国	高知県	岡山県	5月25日～26日	鹿島総合体育館(島根県)
九州	福岡県	沖縄県	4月13日～14日	大分県立総合体育館(大分県)



5) 知的障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成25年5月25日～6月16日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)		
北海道・東北	宮城県	宮城県	6月16日	宮城県総合運動公園総合体育館（宮城県）
関東	埼玉県	千葉県	5月25日	国立代々木競技場第1,2体育館（東京都）
北信越・東海	愛知県	岐阜県	6月9日	山県市総合体育館（岐阜県）
近畿	兵庫県	兵庫県	※予選会未実施	
中国・四国	山口県	高知県	6月9日	高松市総合体育館（香川県）
九州	北九州市	福岡県	6月2日	福岡市民体育館（福岡県）

6) 知的障害者サッカー競技

全国を6地区に分け平成25年4月21日～6月30日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	札幌市	6月29日～30日	岩手県フットボールセンター（岩手県）
関東	茨城県	5月25日	朝日サッカー場（東京都）
北信越・東海	岐阜県	6月9日	新潟県スポーツ公園多目的運動広場（新潟県）
近畿	兵庫県	6月2日	J-GREEN 堺人工芝フィールド（大阪府）
中国・四国	広島市	6月8日～9日	高知県立春野総合運動公園球技場（高知県）
九州	沖縄県	4月21日	グローバルアリーナ（福岡県）



7) 知的障害者ソフトボール競技

全国を6地区に分け平成25年5月11日～6月9日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	宮城県	6月9日	秋田県向浜運動広場（秋田県）
関東	横浜市	5月25日	都立光が丘公園野球場（東京都）
北信越・東海	岐阜県	6月9日	口論義運動公園（愛知県）
近畿	滋賀県	6月9日	加古川両荘河川敷多目的グラウンド（兵庫県）
中国・四国	岡山県	5月11日～12日	倉田スポーツ広場（鳥取県）
九州	長崎県	5月19日	三萩野球場、三萩野少年球場（福岡県）



8) 知的障害者フットベースボール競技

全国を6地区に分け平成25年5月25日～6月9日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	岩手県	6月9日	エール沼公園野球場（北海道）
関東	埼玉県	5月25日	都立光が丘公園野球場（東京都）
北信越・東海	静岡県	6月2日	榛原総合運動公園ぐりんぱる（静岡県）
近畿	神戸市	6月2日	神戸市立小野浜公園球技場（兵庫県）
中国・四国	山口県	6月1日～2日	岡山ドーム（岡山県）
九州	熊本県	5月25日	熊本県身体障がい者福祉センターグラウンド（熊本県）



9) 精神障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成25年4月27日～6月9日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	青森県	6月9日	福島市国体記念体育館（福島県）
--------	-----	------	-----------------

関東	横浜市	5月25日	国立代々木競技場第1・2体育館（東京都）
北信越・東海	浜松市	6月1日～2日	名古屋市障害者スポーツセンター（愛知県）
近畿	大阪府	6月1日	金岡公園体育館（大阪府）
中国・四国	岡山県	6月9日	高松市総合体育館（香川県）
九州	福岡市	4月27日	鹿児島アリーナ（鹿児島県）



③日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京）

実施日：平成25年5月3日～5日

実施場所：東京体育館（東京都渋谷区）

参加チーム：16チーム



④2013パラサイクリング選手権

ロード 実施日：平成25年6月9日

実施場所：秋田県大潟村

参加者数：17名

トラック 実施日：平成25年7月27日～28日

実施場所：伊豆ベロドローム

参加者数：8名



⑤国際盲人マラソン大会

実施日：平成25年4月21日

実施場所：土浦市川口運動公園陸上競技場

参加者数：男子83名、女子45名、計128名

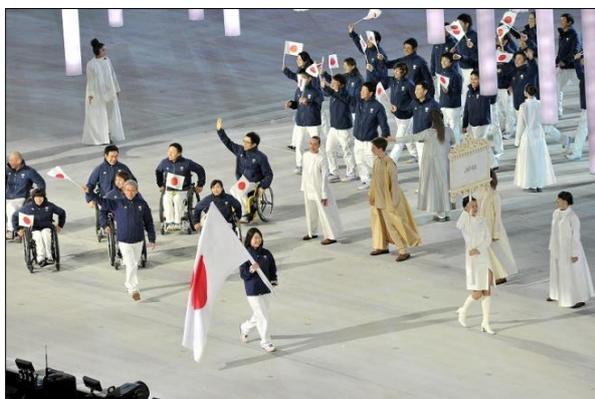


⑥ソチパラリンピック冬季競技大会日本選手団ユニフォーム経費

実施日：平成26年3月7日（金）～16日（日）

実施場所：ロシア・ソチ

参加者数：55名（選手20名、コーチ・役員22名、本部役員13名）



(2) 成 果

①第13回全国障害者スポーツ大会（東京都）

「東京に 多摩に 島々に 羽ばたけアスリート」をスローガンに、大会を実施しました。

全国から67の選手団、約5,300人の選手、役員とともに競技役員・ボランティアをはじめとする関係者や多くの観客が参加して、開会式、閉会式及びすべての競技会を予定どおり実施することができ、大会に関わったすべての人々が「主役」として活躍した大会として全国の皆さまへ感動と元気を届けることができた。

3日間で観客を合わせた参加者は延べ約133,355人で、大会を観戦した人は52,234人で、これは、当初の計画を上回る参加となった。

②第13回全国障害者スポーツ大会予選会

今年度12競技が、6～8ブロックにわかれ予選会を行った。毎年全国72会場以上で、予選会を行い、年々参加する地域の参加チームが増加している。第1回全国障害者スポーツ大会予選会には、各地区から合計275チームが参加しましたが、今回13回では、427チームが予選会に参加しました。これは1回目の約1.5倍、前回より20チームの増となり、このことから全国大会、及び予選会を継続することにより、地域の障がい者スポーツの普及振興に役立っていることがわかる。

③日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京）

全国から予選を勝ち抜いた20チームが参加し初日から熱戦が繰り広げられた。入場者は3日間を通して5,000人の方々にお越しいただき観戦して頂いた。入場者は、間近で熱戦を観戦し、同会場では車椅子体験教室も開催され、障がい者スポーツをより身近に感じることができた。

④2013パラサイクリング選手権大会の開催

国内で開催されるパラサイクリング競技（障がい者自転車）唯一の全国大会であり、国際パラリンピック委員会公認大会として、国際大会への足がかりとなっている。本大会で活躍した選手の多くがパラリンピックを代表とする国際大会で活躍している。

⑤国際盲人マラソン大会

本大会は国内最大規模の約27,000人がエントリーしている、かすみがうらマラソン大会と同時開催し、視覚障がい者が一般選手と分け隔てなく同じコースを走った。また、国際パラリンピック委員会公認コースで、国外から選手も参加した。

障がい者スポーツの普及の意味では、一般選手、ボランティア等、障がい者スポーツ

を身近に感じることができ、競技力向上では、国内で参加できる数少ない公認コースを走ることができ、また海外の選手との交流も得ることができた。

⑥ソチパラリンピック冬季競技大会日本選手団ユニフォーム経費

世界45ヶ国から547名の選手が参加し、日本は20名の代表選手を派遣し、3個の金メダル、1個の銀メダルと2個の銅メダルを獲得した。目標としていたメダル数には届かなかったが、国内でもメディアの関心が高く、前回は上回る200名を超えるメディアとNHK及びスカパー、TBSによる放送関係者が参加し、冬季大会として過去最多の報道があった。今回はパラリンピックでは初の衛星放送のスカパーによる全競技種目の実況放送が実施された。日本では毎日多くのTV放送や報道により、今まで以上にパラリンピック競技が紹介され、日本国民に対するパラリンピックや障がい者スポーツの理解がさらに大きく深まった。

4 事業実施に関して特許権、実用新案権等を申請又は取得したときはその内容

該当無し

5 業界等において今後予想される効果

①第13回全国障害者スポーツ大会（東京都）

開催県では障がい者スポーツの指導員、関係する競技の審判員等、関係者が増加することが考えられる。また、ボランティアとして大会に関わることにより、一般の人がより障がい者スポーツを身近に感じ、障がい者スポーツの理解促進が進む。

②第13回全国障害者スポーツ大会予選会

9競技12種目の団体競技予選会が全国各ブロック（6～8ブロック）において実施された。予選会に参加する、各地域のチームも年々増加しており、また、予選会実施にあたり、各県障害者スポーツ協会、指導者協議会、地域の各競技団体との連携が深まり、スムーズな大会開催をすることができるようになる。

③日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京）

本大会が国内最高峰の大会として継続実施することにより、選手、チームの目標となり、選手強化の重要な役割を果たす。

また車椅子バスケットボールは、一般競技とルールもほとんど同じで、初めて観戦しても応援しやすい。また、スピード、選手の動きの迫力で、見る人を魅了することができる。本大会を通して広く一般の人に、実際に身近で障がい者スポーツを体感してもらうことにより、障がい者スポーツの応援団を増やすことができる。

④2013パラサイクリング選手権大会の開催

リオ2016パラリンピック競技大会にむけて、本大会の開催で選手強化が進む。また、一般自転車競技協会とのつながりが強くなる。アトランタからの連続メダル獲得を継続できたのも本事業による普及・強化の成果である。

⑤国際盲人マラソン大会

国内で開催される、数少ない国際パラリンピック委員会公認大会で、本大会が継続開催されることにより、他の競技団体も国際大会の誘致や、公認申請を目指すようになる。一般ランナーと一緒に走ることにより、伴走に興味を持つ一般ランナーが増える。

⑥ソチパラリンピック冬季競技大会日本選手団ユニフォーム経費

オリンピックと同じユニフォームを着用し、多くのメディアに取り上げられたことにより、パラリンピック選手が注目された。その効果で、広く一般の関心を高めることができ、今後の障がい者スポーツの振興につながる。